

<http://www.atmarkit.co.jp/fwin2k/win2ktips/519rdcons/rdcons.html>

Windows Server 2008 以外

RDC 5.x / 6.0 から Windows Server 2003 のコンソール・セッションに接続するには、以下のコマンドラインを実行する。

```
mstsc /console
```

RDC 6.1 の場合は次のとおりだ。

```
mstsc /admin
```

これ以外にも、/f (全画面表示の指定)、/w (幅ピクセル指定)、/h (高さピクセル指定)といったオプションも利用することができる。RDC 5.x / 6.0 における mstsc コマンドのオプションは次のとおり (RDC 6.1 では「/console」を「/admin」に変える)。

```
mstsc /console /f /w:幅 /h:高さ /v:サーバ名
```

セッション情報

現在ログオンしているセッションがコンソール・セッションであるか、それともリモート・セッションであるかを判別するには、[管理ツール]にある[ターミナル サービス マネージャ]でセッション ID (セッションを識別するための番号)を確認すればよい。ID 番号が 0 となっていればコンソール・セッション、そうでなければリモート・セッションである。

Windows Server 2008

1 ユーザーあたりのセッション数の制限がデフォルト設定の場合

Windows Server 2008 ではデフォルトで、あるユーザー・アカウント 1 つにつき同時に 1 つのセッションだけが利用できるよう設定されている (具体的な設定箇所は後述)。この場合、物理コンソールのセッションをリモート・デスクトップに切り替えるには、単に物理コンソールのセッションにログオン中のユーザー・アカウントで、リモート・デスクトップからログオンすればよい。すると自動的に、物理コンソールからリモート・デスクトップへセッションが切り替わり、物理コンソールは未ログオンの状態 (「Ctrl + Alt + Delete を押してください」というメッセージが表示された状態) に変わる。

物理コンソールのセッションのログオン・ユーザーが不明であれば、前述の Windows Server 2003 の場合と同様に、[管理ツール]にある[ターミナル サービス マネージャ]で各セッションのログオン・ユーザーを表示できる。

1 ユーザーで複数セッションが利用できる設定の場合

Windows Server 2008 で次のどちらかの設定がなされている場合 (デフォルトから設定が変更されている場合)、ターミナル・サービスで単一ユーザーが同時に複数セッションを作成して利用できる (これは Windows Server 2003 と同じ状態である)。

グループ・ポリシーの [コンピュータの構成] - [管理用テンプレート] - [Windows コンポーネント] - [ターミナルサービス] - [ターミナル サーバー] - [接続] にある [ターミナル サービス ユーザーに対してリモート

セッションを 1 つに制限する] というポリシーが「無効」に設定されている。

上記ポリシーが「未構成」に設定されていて、かつ[管理ツール]にある「ターミナル サービス構成」の[1 ユーザーにつき 1 セッションに制限する] が「いいえ」に設定されている。

このとき、既存セッションのログオン・ユーザーと同じユーザー・アカウントでリモート・デスクトップからログオンしても、その既存セッションの接続は切り替わらず、代わりに新しいセッションが生成されて接続される。そこで、物理コンソールとリモート・デスクトップの間でセッションを切り替えるには、tscon.exe コマンドを利用する。接続したいセッションの ID が 3 だとしたら、リモート・デスクトップあるいは物理コンソールのセッションにて以下のコマンドラインを実行すると、ID = 3 のセッションに切り替わる（セッション ID は、前述の [ターミナル サービスマネージャ] または query session コマンドで確認できる）。

tscon 3